

合同技術部会ワークショップW3-2 日本高気圧酸素医療技術学会役員および養成 校教員として

西手芳明¹⁾ 右田平八²⁾ 中島正一³⁾

- | | |
|----|----------------------|
| 1) | 近畿大学 生物理工学部 医用工学科 |
| 2) | 九州保健福祉大学 保健科学部 臨床工学科 |
| 3) | 聖マリア病院 臨床工学室 |

【はじめに】

高気圧酸素治療関連の専門技師認定資格には、高気圧酸素治療専門技師 (JSHUM) 1995年度認定開始: 認定技師数 274名, 臨床高気圧酸素治療装置操作技師 (JACHOD) 2006年度認定開始: 認定技師数 250名, 高気圧酸素治療専門臨床工学技士 (JACE) 2013年度認定開始: 認定技師数 14名の3学会が個々に存在している。各学会の専門技師認定制度は、細かな所での違いはあるものの、その目的は高気圧酸素治療装置の操作を担当する医療技術者が、その治療における看護・管理・治療技術および安全性の向上を図ることにある。

今回は、臨床高気圧酸素治療装置操作技師 (JACHOD) の認定に関与している、一般社団法人日本高気圧酸素医療技術学会 (JAHMET) として、お話をさせていただく。本学会は、高気圧酸素治療を担う技術者 (臨床工学技士・看護師など) の技術の向上、維持、安全管理などを目的に平成 22年 (2010年) 1月に発足し、同年 6月 26日に第1回の学術集会を日本臨床高気圧酸素・潜水医学会および九州高気圧環境医学会と合同で開催した。以降、毎年日本臨床高気圧酸素・潜水医学会と合同で開催を行い 2019年度で 10回目の開催となる。

【認定技師制度の問題点】

高気圧酸素治療認定技師の問題点は、類似した認定資格が3種類あり、関連する団体も個々に存在しているところにある。これにより認定技師取得のためには、各学会に所属する必要があり、時間および費用の負担が大きい。また、維持・更新についても同様と言える。

高気圧酸素治療安全基準では、臨床高気圧治療

技師の施設への常勤が必須となっているにもかかわらず、いまだに認定技師数は不足している。

【考察】

現状は、類似の技師認定資格が3種類もあることから、その位置付けも曖昧となっている。これでは、安全確保が難しいと言える。現時点では、高気圧酸素治療の専門技師を取り巻く環境は決して明るいものではないが、各認定資格の内容を精査し、自施設の状況などを考慮したうえで認定資格を取得し、維持・更新を行うことが重要だと考えられる。

教育の現状では、臨床工学技士養成校は全国に 76校 (2018年現在) 在り、一学年の定員数は 4,049名である。しかしながら、卒業生は 2,800名であった。このことから、臨床の現場へ輩出する臨床工学技士数は少なく、手術室・ICU・血管造影室・透析室などの業務が優先される人員配置により、高気圧酸素治療に携わる技師数は不足していると考えられる。また、日本臨床工学技士教育施設協議会 2015年度のアンケート¹⁾によると、高気圧酸素治療関連の学内実習時間(コマ数)が 10コマ未満の養成校が 72.7%と多くを占めていた。これについては、現行のカリキュラムが重要度の順に決定されるため、高気圧酸素治療関連実習が後回しになるからと考えられる。さらに、臨床での高気圧酸素治療業務に携わっていた教員が少ないことも要因の一つと考えられる。

【結語】

- ・高気圧酸素治療に関わる技術者の医療安全をどのように教育すべきか? 考えて行かなければならない。
- ・スキルアップには、高気圧酸素治療関連の学会、臨床の現場、養成校による三位一体での教育およびカリキュラムの改革が必要である。
- ・認定技師制度を生業教育として維持するために、安全性の確立・向上および人材育成に活用すべきか考えていかなければならない。

参考文献

- 1) 日本臨床工学技士教育施設協議会ホームページ <http://www.jaefce.org/>